

## ■常呂の災害・防災年表

- \* 常呂川の増水・氾濫による水害、台風、吹雪などの自然災害を中心に構成しています
- \* 常呂川の治水と関係の深い築堤や排水機場に関する項目も収めています
- \* 吹雪や遭難・事故なども記録があるものは掲載しています
- \* 火災・防火・消防関連事項は除いています
- \* 単位の解説 長さ・高さ：1丈＝10尺 1尺＝約30.3センチメートル＝10寸  
長さ・距離：1間＝1.8メートル  
面積：1町＝10反（約1ヘクタール）  
1反＝300坪（約10アール）

和暦	西暦	月日	項 目
明治31年	1898	8月31日	常呂川大洪水（9.11まで）下常呂原野一帯泥海と化す。農作物全滅。 1戸3円無利子10年償還で貸付さる（共立百年史） 8月31日より9月11日までの12日間連続豪雨の結果、常呂川大洪水。 土佐団体の12～13戸を残し、川沿・岐阜部落等下常呂原野一帯泥海と 化す（聖徳太子碑70周年記念誌）
		11月	天皇陛下差遣の片岡侍従、洪水の罹災者慰問（土佐郷土史）
明治32年	1899	1月17日	明治31年8月31～9月11日大水害の救助作業で、林喜太松に表彰状と 木杯授与（岐阜部落開基80周年記念誌）
		10月18-19日	ライトコロ川5尺増水、人畜の死傷不明（北海道毎日新聞）
明治33年	1900	3月2日	大寒波襲来、石油氷結（常呂町百年史）
		秋	夜盗虫の大発生で大凶作、人心の不安高まり、下川沿部落有志が相談し、 九州八幡神社から1尺角の角柱を分神してもらい神社建立（共立百年史） 夜盗虫大発生、作物被害甚大（岐阜百年記念史）
明治42年	1909	4月15日	岐阜部落方面大洪水、家屋浸水（22日まで） 朝からの暴風で、夜に入り倒壊家屋が11戸、続けて暴風により各所で火災が 発生、消失戸数22戸（常呂消防団100周年記念誌 北海タイムス） 暴風により家屋の倒壊が相次ぎ、これにストーブ、暖炉から引火し、春先の 異常乾燥に見舞われいっそう被害を大きくした。この時は18号から川沿、 土佐、岐阜に至る一帯は火の海となり、被害は倒壊家屋40戸、消失25戸 の被害を出した。死傷者はいなかったとのこと（共立百年史）
		5月8日	豪雨で水害（聖徳太子碑70周年記念誌）
		5月15日	大洪水となって、岐阜簡易教育所校舎内の浸水2尺におよび、授業3日間 休む（岐阜部落開基80周年記念誌） 岐阜・川沿の窪地では1丈3尺の浸水、浸水家屋260戸、浸水畑地993 町歩3反5畝、被害額約2万円（新北見市史） 太茶苗村53戸全戸浸水、浸水畑地97町1反1畝の半数は2尺の流失、 流失家屋1戸、倒屋1戸（新北見市史） 鑑沸村では佐呂間川が氾濫し浸水家屋321戸、浸水畑地482町2反8畝、 損害1万1,000円（新北見市史） 手師学村で浸水家屋30戸、浸水畑地61町3反9畝、損害1,020円 （新北見市史）
		10月	18号から川沿・岐阜・土佐に至る一帯火の海となる。 （常呂消防団100年のあゆみ）
明治43年	1910	5月	大洪水、学校3日間休校（岐阜百年記念史）
		9月5-6日	大雨により常呂川氾濫（常呂川治水史）
明治44年	1911	7月19日	常呂川氾濫、大洪水となり1丈6尺増水、被害18万円（常呂町百年史） 7月19日より雨降り出す。26日豪雨となり、大水害となる。五号付近

			に流送のアバあり（約二万石）、監督官庁の指揮により、これを切る （聖徳太子碑70周年記念誌） 7月16、17日に台風の通過で大雨、常呂川が増水、上流の手師学村・太茶苗村から順次氾濫して土佐団体の一部を除くほとんどが浸水、太茶苗・川沿方面は床上2尺から5尺の浸水（豊川区開基百年誌）
		8月16-17日	台風襟裳岬沖通過による大雨で、19日に常呂村で1丈3尺の大洪水、走路・堤防決壊10数ヶ所、野付牛村と交通途絶。岐阜集落浸水家屋75戸避難35戸。土佐集落浸水家屋10戸、避難5戸。川沿部落浸水家屋293戸、避難12戸。太茶苗村で浸水家屋50戸、避難40戸。手師学村で浸水家屋28戸、避難28戸。鑑沸村では佐呂間別川の洪水で浸水家屋134戸避難8戸。常呂村役場管内総計浸水家屋590戸、避難228戸。被害反別670町5反、被害総額18万円（新北見市史）
明治45年	1912	1月7日	吹雪により1週間交通途絶（北海タイムス 新北見市史年表）
		3月18-19日	暴風雨により常呂川氾濫（常呂川治水史） 網走1.43ミリ、北見8.4ミリ（豊川区開基百年誌）
		4月2-4日	低気圧による暴風雨、常呂川氾濫（常呂川治水史 豊川区開基百年誌）
		4月14-15日	暖気のため急激な融雪により、常呂村が大洪水になり全村床上浸水4尺、原野浸水8尺。救助船が十分ではなく屋上に3昼夜避難し、絶食。岐阜部落岐阜十八間橋流失、9号で溺死者1人発見するも引き上げできず。川沿部落付近の出水1丈3尺、17号付近堤防80間あまり決壊、半壊家屋23戸、太茶苗村・手師学村で全戸浸水。19日になって減水 （新北見市史 聖徳太子碑70周年記念誌 豊川区開基百年誌）
		5月1日	常呂川増水1丈余、各原野氾濫し交通途絶（常呂町百年史） 17号堤防及び各所決壊（新北見市史）
		5月16-17日	寒気襲来、5～6寸の降雪（常呂町百年史）
大正2年	1913	1月4日	興仁館において常呂川治水問題解決のための村民大会開催（北海タイムス）
		8月1日	常呂川の河口、上川沿、野付牛に水位観測所設置（新北見市史年表） 上川沿水位観測所設置、弓山三五郎が観測（豊川区開基百年誌）
		8月12日	大霜が降り全道的大凶作に見舞われる。降雪被害8月12日午前11時25分より5分間。被害面積200町歩（富丘百年史）
		8月27-28日	暴風雨により常呂川氾濫（常呂川治水史）
		9月13日	暴風雨のため漁船転覆、14人乗り込み中12人行方不明 （北海タイムス 新北見市史年表）
		9月	9月15～17日の雨で水害。9月25日の水害と合わせて89、121円の被害（聖徳太子碑70周年記念誌） 8月、9月と大雨が続き、畑地1500町歩が浸水（豊川区開基百年誌）
大正2年			大霜が降り凶作、大冷害のため豆類凶作（岐阜開基百年史） 「水害降雪のため、収穫は半減し大、小豆のごときは皆無の姿なりき」と常呂村村勢1班に記録（土佐郷土史）
大正3年	1914	8月26日	8月14日来的大雨で常呂川12尺増水、常呂村他3ヶ村は自滅かと報じられる。畑冠水1,500町歩（常呂町百年史）
		9月26日	大雨で畑地1,500町歩浸水（27日まで）（北海タイムス）
		9月	常呂川12号線と17号線の2ヶ所で護岸工事起工、大正4年2月竣工 *別なページには「12号と18号の2ヶ所に堤防設置」の記載 （常呂町百年史）
大正4年	1915	5月2日	常呂川増水：北海タイムス記事（常楽寺開教百年史）
		5月16日	常呂川増水（17日まで）、1.1尺に達する（常呂町百年史）
		11月11日	太茶苗水位観測所設置（常呂川治水史）

大正6年	1917		常呂川治水の築堤陳情：高橋仙蔵は「大正6年道庁に行く。当地より徒歩で網走まで行き、汽車にて出札、日程が半月もかかる」（岐阜百年記念誌）
大正8年	1919	9月19日	22日までの豪雨で未曾有の洪水となり常呂川氾濫。 十八間橋流失（注「聖徳太子碑70周年記念誌」では明治45年4月） 被害戸数393戸、被害額100万円に達する（常呂漁協40年誌） 19日より22日まで雨降り続く。23日より未曾有の大水害となる。 罹災民28日家に戻る。被害額1,079,033円、罹災民戸数393戸 被害面積2305町7反、17号・12号の2ヶ所築堤切れる。 ライトコロ川水系に流れるが、水勢猛烈にして推量増大のため疏通ならず。 土佐3号より常呂川に流入す。土佐部落12～13戸残すのみ。 天聴に達し、500円下賜される。一般より600円余りの義援金並びに 物品寄せられる。（聖徳太子碑70周年記念誌） 常呂川の氾濫によって、常呂岐阜尋常小学校校舎に浸水6尺におよび、 1週間休校。（岐阜部落開基80周年記念誌）
		9月22日	数日來の降雨で常呂川出水。予防準備に着手（当直日誌）
		9月23日	常呂川の出水激甚。川沿部落に被害がある模様なので、午前5時警鐘で消防を招集。村長以下、吏員が午前6時から常呂橋に集合、舟で溯行して各部落罹災民の救助に努力。午後2時より罹災救護仮事務所を公会堂に設ける。 午後11時まで消防員、有志、局長、巡查部長、巡查と協力して救護に従事 浸水反別2700町歩、全浸水家屋350余り、人畜死傷不明、道路橋梁の 流失破損不明、罹災民収容67名、各部落の避難者数不明、太茶苗、手師学 幌内方面交通途絶のため不明（当直日誌）
		9月24日	正午頃より漸次減水。常呂橋脚石垣破損、中央切断低下す。馬死亡6、流失 家屋6戸、鶏豚斃死多数。消防組員、公職者有志、局長、巡查部長ら前日に 続き救護に努力、炊き出し。収容人員44名増加。
		9月25日	午後0時より郵便局楼上において市外在住公職者の協議会を開催。村長・ 収入役出席。協議事項：*常呂橋が交通危険状態なので通行者の処理 *被害者救済の案 *水害の善後策 公職者12名
		9月26日	郵便局で昨日と同じ参集者で協議。*救済会組織 *救済実施の準備として 村内全域の各戸について迅速に調査をすること
		9月28日	村長が公職者6名、書記らと水害地視察のため上川沿へ出張。開設中の救護 仮事務所を午前中で閉鎖
		9月29日	午後2時より郵便局楼上で水難罹災者救済方法について、水害地実況調査、 義援金招集方法について協議、参会者23名
		9月30日	来村中の支庁長ら4名、村長、村議らで実地調査として、上川沿、太茶苗、 手師学方面に出張、即日戻る
		10月1日	村長、収入役、書記ら水害状況陳述のため支庁長の旅宿訪問。午後2時、 支庁長発村を見送る。野坂道義が水害地視察で来村、駅通に泊まる
		10月2日	野坂道義、村議ら3名と同伴して上川沿、太茶苗方面視察
		10月3日	野坂道義帰郷。支庁技師、税務所長が水害地視察で来村。書記同行して水害 地実地調査で手師学方面へ出張
		10月4日	村長が支庁土木技師と常呂橋損壊状態を視察
		10月5日	昨日来村の道庁警務部警部が村議1名、巡查部長と水害地視察。北海道拓殖 銀行野付牛出張所社員が貸付償還延期・臨時貸付のため来村
		10月6日	書記が支庁技師2名と常呂川堤防決壊箇所の川筋を調査
		10月7日	拓銀社員は水害関係調査中
		10月8日	拓銀社員退村。網走測候所所長が9月19日から3日間の雨量調査
		10月10日	北海タイムス参事来村。村長が参事に同行して下川沿行き。12日まで調査
		10月14日	道庁土木部長一行午後6時着。村長・収入役出迎え、郵便局楼上で村長、 村議ら10数名が一行を歓迎する
		10月15日	午前7時、村長、収入役、村議ら数名が土木部長一行に同行して水害地視察 午後2時、土木部長一行はランチ（発動機船）で網走へ向かう
		11月3日	救済資金分配方法について町内会部長会議開催

		9月	* 9月19日から11月3日までの水害記録元資料は、「当直日誌」 下川沿に入植した岩見団体・加賀団体のうち、共立八幡神社祭で奉納してきた岩見神楽の衣装を大洪水で流失、神楽奉納途絶える。太鼓は流失を逃れ残る（イワケシュ郷土史 共立百年史）
大正9年	1920	2月8日	大垣千代太郎村長他村の有志のたび重ねての陳情により、治水工事が決定され、2月8日旗行列が行われる。（聖徳太子碑70周年記念誌）
		3月	融雪のため常呂川増水し、17号堤防決壊し氾濫 （北海タイムス 新北見市史）
		5/22-27	雨で水害（聖徳太子碑70周年記念誌 常呂川治水史）
		6/2-6	雨で水害（聖徳太子碑70周年記念誌 常呂川治水史）
		6月23日	道庁の勅任技師名井九介一行が常呂川水害地現地調査（常呂川治水史） * 着工が決まった常呂川の最終的な治水計画の方針確立のため
		8/10-18	雨で常呂川氾濫、浸水家屋184戸（常呂村史） 農作物被害175町5反、浸水家屋184戸、計308,530円 （聖徳太子碑70周年記念誌） 長雨に常呂村が再び浸水。農作物被害175町5反、浸水家屋184戸、堤防決壊30ヶ所220間、道路流失11ヶ250間、道路破損4ヶ所20間、橋梁流失4ヶ所14間（新北見市史）
		9月	常呂消防組に、大正7-9年の常呂川洪水の人命救助の功績が認められ、組のシンボル纏（まとい）に金馬簾（きんばれん）一条が贈られた。 （常呂消防団日吉分団50周年記念誌）
		11月	常呂川治水工事調査完了、計画実施に入る（常呂町史）
大正9年			上川沿・下川沿間の第1幹線大排水溝、西3線第2排水溝掘削工事完了、遠端湿地の一部が乾燥地に（常呂村史 富丘百年史） * 「イワケシュ郷土史」では大正10年完成 常呂市街裏の護岸工事起工（昭和2年完成）（常呂村史） 秋迄に、合計9回の水害有り（岐阜百年記念史）
大正10年	1921	1月21日	暴風雪激しく電線切断し、波浪激高による河口の氷で常呂橋破壊。 終日北西の風烈し
		4月2日	常呂川治水工事起工が確定。これに祝意を表すためにかねてからの予定通り午後5時より常呂校に一同集合、勢揃いをして午後7時より集合者は児童と共に提灯行列を挙行。行列に参加する者多数、隊伍数町に続き、熱狂する。群衆は融雪時の悪路もいとわず、常呂市街を一周し、午後8時半盛会裏に解散（当直日誌）
		6月7日	常呂川築堤用地実地調査（8日 等級調査）（常呂川築堤用地調査表）
		6月27日	霜で大被害（富丘百年史）
		8月1日	常呂川治水工事起工式（大堤防工事、11月着手、国費120余万円） 常呂治水工場設置：昭和3年4月常呂治水事務所に併合 人夫収容宿舎・馬ト口運搬厩舎新築：12月完成（常呂川治水史） 常呂村市街地に民家を借用、現場事務所に充て、10数名の技術者・事務官常駐、工事施行担当（常呂町史）* 旧常呂郵便局庁舎を現場事務所に 本日、午前10時、常呂川右岸河口において起工式挙行。11時より常呂校において起工祝賀式挙行、参列者200余名、一般観覧者千余名（当直日誌） * 日付と「常呂川洪水工事起工祝賀余興会」の説明入り写真あり ・ 神社社殿が写り込んでいる：明治神社 * 昭和2年まで毎年8月1日に「常呂川治水工事起工式」の祝賀会を実施
		9月	太茶苗・川沿・幌内方面、堤防決壊浸水（常呂町史）
		11月	14号新水路工事始まる（常呂村史 聖徳太子碑70周年記念誌）* 14号常呂川左岸築堤終点部分から着手、14号新水路掘削に着手（常呂町史）
大正10年			常呂川治水工事関連で常呂川下流部下常呂原野14号に仮橋架設 （常呂川治水史）
大正11年	1922	6月15日	共立川東に聖徳太子碑建立（聖徳太子碑70周年記念誌）* 常呂川左岸下川沿

			<p>工事と治水祈念して聖徳太子像を建立（イワケシユ郷土史）</p> <p>6月27日 強烈な降霜のため農作物：豆・菜豆類の全滅的被害（当直日誌 常呂町史）</p> <p>8月24日 常呂川上流地区および岐阜地区洪水、被害甚大、降水量100年間で最大。学校一週間休み</p> <p>8月24-25日 この時の水害で築堤が3尺かさ上げ決定（聖徳太子碑70周年記念誌）</p> <p>釧路根室地方を通過した台風で、常呂村では浸水25尺。9月20日の「北海タイムス」に39尺5寸とある。未曾有の増水で、13号から16号の治水工事堤防が大音響とともに決壊し、常呂原野一面が大海原と化し、老若男女は逃げる道なく屋根に登って悲鳴を上げ救いを乞う凄惨な光景が広がった。大柿村長をはじめ村議、上杉消防組頭、青年会長、時希有団長らは決死隊を組織し、救助船をしたて救助避難させ、学校・寺院に収容、婦人会は炊き出しを行った。手師学・太茶苗方面は救助船を派遣できず、28日まで連絡がなかった（新北見市史）</p> <p>17号堤防が見る間に破られ、14号の河川上橋（トロ曳き鉄路）切断、13号周辺の部落民に大きな損害、大惨事（豊川区開基百年誌）</p> <p>当時の新聞では、常呂村の被害は家屋流失22戸、家屋浸水300戸、田畑浸水2,100町歩、橋梁流失16カ所、治水堤防流失3カ所（豊川区開基百年誌）</p> <p>大洪水で、真宗大谷派説教所（高德寺）本堂流失（常呂町史）</p>
大正12年	1923	<p>5月22日 暴風雨のため常呂浜で鰯200石流失（常呂町史）</p> <p>昨日来の風雨で鰯網、各漁場の被害相当甚大、流失鰯約200石（当直日誌）</p> <p>5.6月 5月、6月に冷雨連続、豆作不作（岐阜百年記念史）</p> <p>9月15-18日 大雨で常呂川氾濫。常呂村では3尺増水と当時の新聞で伝えられている浸水家屋161戸、田畑農作物被害105,298円（常呂川治水史 新北見市史）</p> <p>9月17日 雨水14尺（約4.2メートル）に達せり（当直日誌）</p> <p>9月25日 午前3時より降り、終日大雨。豪雨で出水、14尺に達する（当直日誌）</p>	
大正12年		<p>大雨により常呂川氾濫（常呂川治水史）</p> <p>内水排水三号水門築造、右岸築堤工事着工（聖徳太子碑70周年記念誌）</p> <p>「常呂川治水史」では、12月、3号堤防に排水溝逆水門竣工</p> <p>常呂川右岸築堤工事着工（常呂川治水史）</p> <p>築堤工事で蛇行の大きい14号付近の川の切り替え工事は、常呂川治水工事最大の工事であったが冬期間通して行い年末に完成（豊川区開基百年誌）</p>	
大正13年	1924	<p>1月23日 本日、午後5時より28日午前9時頃まで連日大降雪及び北風強く交通途絶</p> <p>1月24日 烈風のため、終日一寸先も見えず</p> <p>1月25日 前日通り吹雪。午前11時、消防組が市街及び学校まで道開けをなす</p> <p>1月26日 吹雪。ご成婚式を常呂校において挙行、村長以下全吏員参列。式前に消防組が市街より学校まで道路つけをなす *昭和天皇ご成婚</p> <p>1月27日 前日通り大吹雪、交通途絶</p> <p>1月28日 連日の大吹雪が漸く止むも積雪多く交通途絶。青年団員及び消防組が道開け</p> <p>1月31日 除雪実行の協議をする。村長、市街外勤</p> <p>2月1日 快晴。吉田書記が除雪隊を指揮して浜市街に出張</p> <p>2月3日 村長、浜市街除雪復旧状況を視察</p> <p>*1/23-2/3までの元資料は「当直日誌」</p> <p>1月 大正10年11月に着工した14号地点の新河道（豊川新水路）掘削工事完了（ショートカット工事）（常呂川治水史）</p> <p>3月 大吹雪、交通途絶（岐阜百年記念史）</p> <p>5月10日 昨朝来の烈風止まず昨夕より降雪。常呂浜一帯漁家の舟・漁具・漁獲物流失被害甚大の様相（当直日誌 常呂町史）</p> <p>11月11日 連日の降雨で常呂川出水、治水工事用8号橋流失。11日までの降雨量は110ミリ。常呂川海岸（自然の両岸）いっぱい出水で、今年初めて。流木多いため、工事専用橋の一部流失（当直日誌）</p>	

大正14年	1925	4月14日	昨夜来の雨がにわかの大吹雪となり交通途絶状態。流氷、暴雨風のため下湧別の漁船4隻が漂流して本村に漂着、漁夫25人の内1人行方不明 (当直日誌)
		4月26日	24日の降雨に伴う融雪のため、出水多量。常呂橋量水器の示すところによれば、大正8年9月23日の出水量に比べ、わずか1尺6寸(48.5センチ)少量なり。春季の出水量としては近年まれに見る多量。(当直日誌)
		6月15日	上川沿に発した山火事は、南部・更生地区を焼きつくし、現国道238号線で止まった。部落総出の消火作業にさすがの猛火も日没とともに鎮火 (岐阜部落開基80周年記念誌)
			常呂川左岸築堤完成(常呂町史)
大正15年	1926	8月1日	常呂川治水工事記念祝賀会を8号において挙行(当直日誌) アネトイ(姉問逆水門)水門工事終わる(聖徳太子碑70周年記念誌) 常呂川下流部右岸姉問樋門工事に着手し、同年完了(常呂川治水史)
昭和2年	1927		常呂川市街裏の護岸工事完成(大10起工)(常呂村史)
昭和3年	1928	7月2日	午後2時より治水工事記念碑について打合せ(当直日誌)
		7月	常呂川大堤防護岸工事完成(常呂村史)
		9月19日	治水工事竣工祝賀会の打合せ、午後1時より4時半まで。競馬会の打合せもあり、午後5時半終了(当直日誌)
		9月22日	午前10時より午後1時まで治水工事祝賀会の打合せ(当直日誌)
		10月7日	常呂小学校で常呂川治水工事竣工祝賀会開催(常呂川治水史) 常呂川治水工事竣工祝賀会のため吏員一同外勤、来賓32名の他多数の参加あり(当直日誌) 祝賀会后、常呂公園で園遊会、相撲・花火・手踊り(ところ文庫30常呂川) 「常呂川治水工事完成祝賀行列の歌」披露(常呂町史)
		10月8-10日	常呂川治水工事竣工記念競馬開催(常呂町史 ところ文庫30常呂川) 10/8 競馬のため、2名を除き外勤。雨のため競馬進行思うようにはいかず 10/9 今日天気も良く人も多いため、競馬も非常に盛大であった。 今日で終わるところ、競馬も1日延期せり 10/10 競馬のため、吏員8名外勤(当直日誌)
昭和3年		本村9号に常呂川治水橋架設、昭和6年まで利用、以後渡船となる (共立百年史) 治水守仏聖徳太子川東8号に建立(共立百年史)	
昭和6年	1931	8月7日	手師学・太幌方面浸水(常呂町百年史)
		11月4日	常呂川8号橋(築堤工事に架橋)が吹雪の為落橋、以後渡船で通学児童を渡す(「イワケシュ郷土史」では春)(共立橋) *11月の大雪で、8号9号間の治水工事用木橋が老朽・穴だらけで落ち川東が不便に。昭和7年10号に渡船場設置、渡船守置き、学童通学 (共立百年史)
昭和6年		12月	この年大凶作、凶作救済工事施行(常呂町史) 農業凶作のため、国による配給(塩100キロ、足袋63足、手ぬぐい93本、男子用シャツ14枚、作業服1ダース、フェルトズボン2足、木綿7反マッチ90箱が富丘の諸岡商店に届く;部落日誌記載(富丘百年史) 治水守仏聖徳太子川東より高德寺に移転(共立百年史)
昭和7年	1932	1月2日	午後9時より凶作罹災者に対する聖旨伝達式を行うため、罹災者に通知状212通、公職者に案内状発送し、吏員全員で発送作業午前1時に完了 (当直日誌)*御下賜金交付式
		1月5日	常呂小学校で御下賜金交付式挙行。全員出席し、公職者多数参列 *1戸1円 212戸(当直日誌)

		1月25日	書記が凶作救済工事施工について日帰り出張（当直日誌）
		1月28日	凶作救済工事施工の速達電報を受ける。（当直日誌）
		2月26日	前年の凶作救済のため、白米を払い下げ、臨時の受取会を議事堂で開く。 午後3時散会（当直日誌）
		6月15日	降雹により農作物に被害（常呂町百年史）
		7月	夜盗虫大発生、燕麦黒点病発生、収穫皆無。（岐阜百年記念史）
		7月	大旱魃後、長雨続き、凶作（岐阜百年記念史）
		8月7日	*8/6：野付牛河川看守より増水5尺、警戒を要すの電報 増水による被害程度の調査のため、手師学・太幌部落へ出張（当直日誌） 8月4日以降、前後8回の豪雨来襲。8月の総雨量300-400ミリで 累年平均の3倍の降雨量。8月7日常呂川洪水、農作物腐敗などで収穫皆無 2年連続の冷害（豊川区開基百年誌）
		9月6日	常呂川アネトイ逆水門開閉器故障で閉塞不可（当直日誌）
		9月7日	常呂川出水甚だしく、野付牛間自動車・人馬通行止め、太幌方面3尺以上 とのこと（当直日誌）*9/8-9/9：岐阜・上川沿・下川沿・太幌・手師学・ 水害調査
		9月8日	村長・吏員が分担して岐阜・川沿・手師学・太幌の水害調査（当直日誌）
		9月10日	水害凶作救援協議会開催（常呂町史）
		9月14日	村長と村有志が水害と凶作救済のため網走出張（当直日誌）
		9月16日	桑原道議、水害凶作状況視察のため来村（当直日誌）
		9月17日	村議事堂で水害及び凶作救済協議会開催（当直日誌）
		9月28日	山口道庁属的場技手、凶作および水害被害調査のため来村。（当直日誌）
		10月3日	桑原・小谷・高橋道議、水害凶作状況視察のため来村（当直日誌）
		10月6日	水害地視察のため道庁畑山土木課長来村（当直日誌）
		10月12日	村長から訓示「今次の本道の凶作並びに水害状況は畏れくも天朝に達し、 内帛金を賜うとのこと。なお、水害凶作状況視察のため天皇は侍従を派遣 され、16日は野付牛町、17日は網走町を視察されるとのこと（当直日誌）
		10月19日	内帛金（ないどきん）伝達式は12月4日挙行（当直日誌、常呂町史） 午前10時より議事堂で村議・部落区長を招集し、凶作に対する諸事項及び 貧困者への食料提供の実人員等について協議、午後4時閉会（当直日誌）
		10月28日	貧困者への配給米のため書記2名が村内出張（当直日誌）
		11月5日	凶作救済の政府払下げ米の貸付について委員会開催（当直日誌）
		12月4日	午前10時より議事堂で御下賜金（天皇より内帛金）伝達式 村議・区長・学校長、その他公職者列席（当直日誌）（410戸410円）
		12月20日	凶作による罹災者の対し、救済米の配給を役場・川沿小学校で行う
		12月31日	凶作救済土木工事人夫賃支払い（当直日誌）
昭和7年			凶作による6号堤防補強救済事業行う（共立百年史）
昭和10年 昭和10年	1935	8月27-30日	台風通過により大雨、常呂川各所で氾濫（ところ文庫30 常呂川） 冷水害（岐阜百年記念史）
昭和12年	1937	2月14日 2月15日 2月16日	吹雪のため、列車運行せず（当直日誌） 東浜の湧網線東線で吹雪の中除雪作業中の土佐青年団員が除雪車に撥ねられ、 13名中5名死亡、5名重傷の大惨事 （昭和62年度オホーツク大学文集「トーコロ」 当直日誌） *「隈川部落領収書綴り」に、昭和12年3月11日付け領収書として 常呂鉄道遭難者義援金を支出 鉄道遭難者の件で札幌鉄道局工務部長他5名来場（当直日誌）
昭和13年	1938	6月	冷雨続き、豆等播きつけできず（岐阜百年記念史）
昭和14年 昭和14年	1939	8月15-17日	台風による暴風雨で常呂川氾濫（ところ文庫30 常呂川） 風水害（岐阜百年記念史）

昭和15年	1940	8月1日	共立10号堤防と道々の間に水難者供養碑建立（共立百年史） *水難者供養地藏尊：現在は共立会館前
昭和16年	1941	2月	川沿・手師学方面に浸水、麦類と亜麻の茎流出（常呂町百年史）
		6月2日	8日まで常呂川増水、川沿・手師学方面浸水、麦類・亜麻流失（常呂町史） 6月8日から連日の降雨によって、常呂川が氾濫、上川沿（豊川）、手師学（日吉）地域の農耕地は冠水による相当の損害（土佐郷土史）
		6月8日	6日夜からの降雨・強風の件で、昨夜に引き続き常呂川が増水。川沿・手師学方面の被害甚大なる見込み（当直日誌）
		6月9日	水害被害調査のため吏員5名が現場に出張。太幌部落上流方面の農作物は全滅に近い被害を被る（当直日誌）
		8月下旬	吉野で3日間の大雨で堤防決壊、刈り込み前のハッカ、豆、その他作物に甚大な被害。川の様相が一変し、山際に移行。被害約3町歩 (吉野50年のあゆみ)
昭和19年	1944	4月8日	大吹雪で常呂国民学校全職員が鉄道に出動（常呂小学校学事報告） 村長室で鉄道除雪について、大沼駅長・町内会長会議。午後より町内各戸1名以上、鉄道線路除雪に出役す（当直日誌）
昭和20年	1945	11月	水害、人畜に被害大（常呂町百年史）
昭和24年	1949	5月12日	日吉橋、増水のため流失（当直日誌） *昭和25年5月1日渡橋式（当直日誌）
		6月8日	日吉橋災害箇所調査で技官来村、村長が案内（当直日誌）
昭和25年	1950	11月20日	未明に増水2メートルに達し、太幌橋のコンクリート打込樁流失（当直日誌）
		11月23日	町長、太幌橋工事視察。客土工事も視察、機関車の調子が悪い（当直日誌）
		11月28日	風害で常呂中学校の便所屋根・玄関屋根、校長住宅樺太引揚無縁故者収容所（引揚者住宅：字常呂519番地）、風害のため収容所屋根が破損し、居住者大人30余名委員会室で1泊（当直日誌） 11月29日、風害のため本日も停電（当直日誌）
昭和26年	1951	1月8日	除雪自動車配置される（当直日誌）
昭和27年	1952	10月23日	ポリー台風の大暴風浪により鮭定置網全統（大謀8本、中定3本）流失 40年来の大暴風浪で全滅（常呂漁協40年誌）
昭和28年	1953	9月27日	常呂川堤外地氾濫、福山・日吉農作物の被害甚大（当直日誌 常呂町史） 台風13号による暴風のため、福山・日吉地区の常呂川堤防から溢水、農作物に被害（常呂町百年史 ところ文庫30 常呂川）
昭和28年		冷害で豆作皆無。救農土木事業あり（岐阜百年記念史）	
昭和29年	1954	5月10日	暴風浪のため知床出漁中の所属20隻遭難。4隻転覆又は行方不明 乗組員21名全員行方不明となる。他16隻は大中破の損害あるも乗組員異常なし（常呂漁協40年誌） 常呂小学校、強風特報発令のため午前中で児童を帰す（常呂小学校沿革誌）
		5月23日	漁船遭難者合同慰霊祭：源盛丸・勇丸／於天龍寺（当直日誌）
		6月12日	漁船遭難者合同慰霊祭（共進丸2隻、於天龍寺）（当直日誌）
		7月26日	北見バルブ廃液の常呂川に放水処理について懇談会を開く。ふ化場技師・北見支場技師他、町長も出席（当直日誌）*日誌の文字正確判別困難
		8月10-11日	8月8日からの雨降り、午前11時に忠志橋流出の報告 午後4時、福山23号まで視察、23号橋付近は約4mの浸水で通行不可 11日には前日より90cm増水、2mに達する、町長以下上流視察 (当直日誌)



		8月20日	午後、13号堤防に河川水浸透の現場を見る。今月11日の増水よりさらに増水の見込み、要注意。日吉支所より電話あり、市街地に相当の浸水、益々増水、23号付近も浸水により午後からは交通不能（当直日誌） *「常呂町史 常呂町百年史」では8月30日（誤り）
		9月26日	15号台風被害：常呂中学校屋体屋根10坪、病院車庫、錦水校校舍窓枠10枚、常呂丸中破（当直日誌） 夕刻北海道に上陸した台風15号により、家屋損壊20戸、電柱倒壊5本（新北見市史）
昭和30年	1955	2月21日	吹雪のため、常呂・北見間のバス運行中止、列車は1番列車のみ運行（当直日誌）
		9月8日	常呂川氾濫、午後5時に日吉橋危険状態で逐次増水、逐次増水しているため徹夜勤務の連絡あり。午前4時に日吉支所に連絡、昨晚11時に降雨やみ減水、日吉橋は何でもないとのこと（当直日誌） 田畑1300町歩浸水・冠水、道路決壊30カ所、橋梁流失1カ所、家屋浸水25戸：床上10戸、床下15戸（当直日誌 常呂町史） 日吉小学校が洪水のため2日（9/8、9）間臨時休校（日吉小80年史）
		9月30日	暴風雨警報発令（当直日誌） 日吉小学校が洪水のため臨時休校（日吉小80年史） *日吉小学校学事報告では10月1日臨時休業
		10月12日	日吉隈川橋小破損、福山23号浸水、バス運行中止（当直日誌）
		10月13日	議長、助役、産業係、農協が災害状況視察（当直日誌）
		10月16日	町長が日吉・福山の被害視察（当直日誌）
昭和31年	1956	2月11日	吹雪のためバス運休、（2月14日、本日よりバス運行開始）（当直日誌）
		2月29日	吹雪のためレールバス運休（当直日誌）
		3月1日	吹雪のため列車運休、午後3時で公務打ち切り（当直日誌）
		3月6日	網走沖地震、午前8時半から約30秒、震度4。常呂小学校、国保病院集合煙筒落壁、商品落下等の被害あり（当直日誌） 午前8時55分に15センチの津波が沿岸に押し寄せた（新北見市史） *余震：微震 3/7：2回 3/9：2回 3/10：1回 3/19：1回（当直日誌）
		4月16日	日吉小学校が洪水のため臨時休校（日吉小80年史）
		8月19-20日	8/19 水害状況、12時現在：水位1m39cm、23号付近2尺程度、浸水面積約120町歩 午後6時現在。冠水230町、浸水260町 8/20 水害状況 12時現在：冠水470町、浸水550町、床下浸水家屋23戸（当直日誌）
		12月10日	日吉小学校が吹雪のため臨時休校（日吉小80年史）
昭和31年			冷害大凶作に見舞われる、全道的に大正2年以来の大冷害（農協50年史）
昭和32年	1957	3月11-14日	吹雪のため、列車・バス共に全休（当直日誌） 吹雪のため第1回定例議会延期（3月13日）
		3月14日	町内を午前・午後各1回一斉除雪（当直日誌）
		3月15日	本日より列車2往復あり（当直日誌）
		3月16日	鉄道除雪のためロータリー車来町（当直日誌）
		5月21-23日	5/21：一昨日夜以来の雨で常呂川増水、日吉・福山地区に被害発生 22日午前6時頃、日吉地区の橋梁流失1、畑冠水420町歩以上、家屋床下浸水15戸、床下浸水2戸、福山地区不明（当直日誌） 福山愛林橋と小貫橋流失（常呂町史） 5/22：常呂川増水、最高水位2.6メートル。網走新聞写真、網走開発建設部長ら被害状況視察、町長同行。常呂川河口防波堤を中心に左岸鉄道橋下決潰、増水量は昭和11年以来（当直日誌） 5/23：常呂川増水水位が1.5メートル位下がる。水害による被害調査実施 福山橋、愛林橋、小貫橋流失。登・吉野は行けず（当直日誌） 日吉小学校が洪水のため2日間臨時休校（日吉小80年史）

		5月24日	午前9時30分から午後3時まで議事堂で臨時町議会（当直日誌）
		5月25日	町長が開発建設部、土木現業所へ水害を報告・打合せ。午後2時頃、土木現業所所長が水害視察（当直日誌）
		5月26日	農協が臨時総会、町長臨席（当直日誌）
		5月27日	支庁技師一行が水害地調査。議会土木常任委員会が道路調査 災害対策要請書が出来たら札幌市スミレ会館の大沢道議宛てに発送すること （当直日誌）
		5月28日	水害関係で農業委員会開催（当直日誌）
		10月末	昭和32年5月発生の水害で流失した橋の復旧工事完了（常呂川・隈川流域： 小貫橋・清水橋・吉野第一号橋）（広報とことろ）
		12月4日	（日吉小）吹雪のため臨時休校（日吉小80年史）
昭和33年	1958	1月22日	日吉小学校が吹雪のため2日間臨時休校（日吉小80年史）
		2月13日	2/13：午後5時32分、暴風雪注意報発令。道東地区列車ダイヤ混乱。 湧網線、網走行き、午前6時19分のみ 2/14：吹雪のため、登庁後ただちに休み、湧網線不通（当直日誌） 日吉小学校が吹雪のため3日間臨時休校（日吉小80年史）
		9月18日	台風21号本道に接近、午前7時、助役他水害状況視察のため出発。 日吉地区午前30分、常呂川2m20cm増水、隈川70cm増水、 午後3時暴風雨警報発令、翌午前6時、警報解除（当直日誌） 福山・日吉地区の田畑60.8ha被害、損害額2636万3000円（常呂町百年史）
		9月27日	台風22号本道に接近、日吉・福山地区水害を受ける。常呂川28日午後 に氾濫。福山・日吉地区の田畑604.8ha冠水、損害額2,636万3,000円に達する （広報とことろ ところ文庫30 常呂川） 夜半から台風22号の豪雨で常呂川増水、28日午後氾濫、福山観測所で 最高水位10m49cm。17号以南の福山・日吉地区は一面濁流化し完遂 福山地区はせっかくの豊作が一夜に流された（共立百年史） *「共立百年史」記述の「福山17号の太幌橋橋脚2つに折れる」は誤り
		9月29日	日吉小学校が洪水のため臨時休校（日吉小80年史）
		10月13日	常呂川の日吉橋が事故により学童渡船通学（日吉小学事報告） 日吉橋流失につき、学童渡船にて通学 （日吉小60周年・日吉中20周年記念誌）
昭和33年	1958	1月22日	（日吉小）吹雪のため2日間臨時休校（日吉小80年史）
		1月24日	（日吉小）自転車小屋雪のため全壊（日吉小80年史）2/2：改修修繕工事
		2月13日	2/13：午後5時32分、暴風雪注意報発令。道東地区列車ダイヤ混乱。 湧網線、網走行き、午前6時19分のみ 2/14：吹雪のため、登庁後ただちに休み、湧網線不通（当直日誌） 日吉小学校が吹雪のため3日間臨時休校（日吉小80年史）
		9月18日	台風21号本道に接近、午前7時、助役他水害状況視察のため出発。 日吉地区午前30分、常呂川2m20cm増水、隈川70cm増水、 午後3時暴風雨警報発令、翌午前6時、警報解除（当直日誌） 福山・日吉地区の田畑60.8ha被害、損害額2636万3000円（常呂町百年史）
		9月27日	台風22号本道に接近、日吉・福山地区水害を受ける。常呂川28日午後 に氾濫。福山・日吉地区の田畑604.8ha冠水、損害額2,636万3,000円に達する （広報とことろ ところ文庫30 常呂川） 夜半から台風22号の豪雨で常呂川増水、28日午後氾濫、福山観測所で 最高水位10m49cm。17号以南の福山・日吉地区は一面濁流化し田畑 の冠水、橋梁の流出、道路の決壊などの被害を受けた。特に福山地区の被害 は大きく、折角の豊作が一夜に流され、福山17号の太幌橋も脚がえぐられ 2つに折れてしまった。（広報とことろ 共立百年史）
		9月29日	（日吉小）洪水のため臨時休校（日吉小80年史）
		9月29-30日	出水のため、福山小学校西部地区児童登校停止（福山小学校学事報告）
		10月13日	日吉橋（常呂川）事故により学童渡船通学（日吉小学事報告）

			日吉橋流失につき、学童渡船にて通学 (日吉小60周年・日吉中20周年記念誌)
昭和33年			冷害凶作年(岐阜百年記念史)
昭和34年	1959	1月31日	日吉小学校が吹雪のため臨時休校(日吉小80年史)
		5月2日	オホーツク海域で操業中の中島丸、乗組員5名が暴風により行方不明 (常呂漁協40年誌)
		5月13日	中島丸合同葬儀:於天龍寺(常呂漁協40年誌)
		6月15日	常呂川改修工事着工(20年計画、総工事費約30億円、6.18起工式) (当直日誌)
		6月18日	常呂川改修工事起工式:於共立(当直日誌) 17号から下流の従来の堤防を完全堤防にするとともに、17号から38号までの間に4カ所両岸に完全堤防新設を計画(広報ところ) 市街地付近は外部をコンクリートにおおった特殊堤防の築堤、川底掘削を計画(常呂町史)
昭和35年	1960	3月13日	前日からの降雨により常呂川氾濫、日吉橋・栄福橋(旧橋)流失、 家屋への浸水などもあり(当直日誌) *融雪災害 *日吉橋復旧工事:橋長40m 日吉橋一部架け替え:20m
		6月1日	3月の水害で一部流失した日吉橋の復旧工事着工(8月24日まで予定) (広報ところ)
		12月8日	日吉橋落成式・渡橋式:日吉校(当直日誌)(6月着工) 3月の融雪災害で日吉橋が流失、流失部分は復旧、流失しなかった部分は架替(6月から)、その間常呂漁協提供の磯舟で交通確保(広報ところ)
昭和36年	1961	1月26日	(日吉小)吹雪のため2日間臨時休校(日吉小80年史)
		2月8日	吹雪のため交通途絶(広報ところ)
		8月17日	台風9号、太幌橋などに被害を与える 「広報ところ」10月号に、臨時議会で隈川橋・太幌橋補修費計上の記事
		9月中旬	築堤中の日吉地区の堤防が常呂川の増水で崩壊(常呂町百年史)
昭和36年			常呂川日吉左岸築堤工事着工(常呂川治水史 常呂町百年史)
昭和37年	1962	8月3日	台風9号の襲来で被害総面積2,521.4ha(水田41.5ha、畑2,479.9ha)、 床上浸水44戸、床下浸水8戸、被災人口302人、道路・橋梁2ヶ所、 被害総額2億6759万4000円(常呂町百年史) 台風9号(3~4)による洪水で被害面積812ha、被害農家195戸、 被害額9,435万円に達し被害甚大。太幌橋流失。(農協50年史) 福山太幌橋の橋脚がえぐられ、橋が2つに折れる(広報ところ) 「広報ところ」9月号では写真付き6ページにわたり台風災害特集 常呂川上流でおよそ180ミリに達し、4日午後7時頃から増水、日吉以北 の農地に甚大な被害(豊川区開基百年誌) *北見放送局が福山地区の現地録音をし、区長・福山小校下父兄の声が全国 にラジオ放送。岐阜県高山市の大埜間昌氏から衣類・図書届き、大埜間 文庫を福山小に設置(福山小40年のあゆみ)
昭和38年	1963	3月11日	昭和36年に公布された災害対策基本法を受け、常呂町防災会議条例を制定、 常呂町防災会議を組織(常呂町史)
		11月9日	大暴風浪により建込中の鮭定置網全統流失・大破、被害甚大。(~11日) 第2次オホーツク災害と称し復旧対策(常呂漁協40年誌)
		11月15日	昭和29年5月のオホーツク災害被災者の慰霊のために常呂漁業協同組合が 海難者慰霊碑(弁天)を建立・入魂式(ところ文庫常呂町歴史散歩)
昭和38年			常呂川日吉右岸築堤、常呂左岸特殊堤着工(常呂町百年史)
昭和39年	1964	7月1日	常呂川水質基準を決定(広報ところ)

		7月7日	常呂川廃液問題で常呂川汚水防止対策漁民会を開催：中央公民館 大会終了後全員バスで北見市に向かい、市内をデモ行進（広報ところ）
		8月26日	台風14号で田畑冠水：682ha、被害額7,091万円（農協50年史） 24日深夜から台風14号がもたらした豪雨が26日まで降り続き、27日午前中に福山・豊川・共立地区が逐次氾濫し一面泥流。死亡1名、床上浸水4戸、床下浸水13戸、非住家浸水3戸、田畑冠水682ha、河川損害8ヶ所、町道決壊7ヶ所、のり養殖被害、被害総額1億3,180万円 （広報ところ 新北見市史）
		8月下旬	台風14号により常呂川氾濫。26日から増水、27日早朝から日吉・福山・豊川・共立地区が次々に氾濫、午前中には最高水位に達した。そのため、常呂川堤防敷地内は濁流化し、堤内においても田畑の冠水、道路・河川の決壊など非常に大きな被害をこうむった。被害額1億3,000万円以上 台風14号で田畑冠水：682ha、被害額7,091万円 堤防が完備されていなかった福山地区の被害が大きく、せっかくの農産物が一夜で収穫皆無状態に（共立百年史）
		10月17-18日	（吉野）大雨が3日間降り続き、昭和16年を上回る大水害。刈り取り前の畑がほとんど流される（吉野50年のあゆみ）
		10月	暴風（風速26メートル）によってサケ定置網流失：大定置網流失6ヶ流、70%流失3ヶ流、30%流失2ヶ流、15%流失1ヶ流、被害推定額5,848万円（広報ところ）
			福山左岸築堤工事着工：延長420m（昭和45年完成） 網走開発建設部の台風14号水害視察追加工事（広報ところ常呂川治水史） 冷水害大凶作となる、8月26日の台風被害と9月の早霜により被害額は2億3,663万円となり31年以来の大凶作となる（農協50年史）
昭和40年	1965	2月1日	（日吉小）吹雪のため臨時休校（日吉小80年史）
		3月12日	日吉小学校が吹雪のため臨時休校（日吉小80年史）
		7月5日	常呂川汚水補償問題は、若林支庁長調停役の調停会で示した北見市が漁業振興資金として2千万円を常呂町に助成する調停額で了承（広報ところ）
		8月24日	常呂漁協の常呂川汚濁による被害補償要求で、網走支庁長が調停、調停案を受託し、常呂川汚濁被害者補償調印（常呂漁協40年誌）
		8月	台風14号により常呂川が氾濫。農業被害1億3千万円、漁業被害6千万円 （新北見市史）
昭和40年			冷害、凶作（岐阜百年記念史）
昭和41年	1966	6月29日	台風4号による被害。低温による冷害、過照による温害凶作（共立百年史） 吉野・日吉地区の隈川と常呂川が氾濫、橋梁1ヶ所流失 雨量69ミリから多いところで80ミリ、吉野地区の町道1カ所決壊。 吉野地区の水田、共立一部田畑90ha冠水、被害額約650万円 福山小・川沿小2校が休校（広報ところ）
		11月中旬	大漁目のサケ定置網のほとんどが襲来した大時化で流失大破の被害 （常呂漁協40年誌）
昭和41年			福山右岸築堤工事着工（昭和45年完成）（常呂川治水史） 昭和37、39、40、41年の連続凶作にて農業経済に打撃をうける （共立百年史） 大凶作の難関打開の一助として、かき島荘で研修会を開催。 （常呂町農協青年部50周年記念誌）
昭和42年	1967	2月24日	福山小学校で冷害給食始まる（福山小学校五十年のあゆみ）
		11月12日	豊浜漁業生産組合所属鮭定置船とよはま丸転覆遭難、乗組員13名行方不明 （常呂漁協40年誌）
		11月19日	とよはま丸遭難者合同葬儀（於天龍寺）
昭和43年	1968	3月19日	日本水難救済会常呂救護所が認可・設置（広報ところ）

		4月8日	水難救済会常呂救難所開所式（常呂漁協40年誌）
昭和45年	1970	11月6日	常呂川汚水撲滅総決起大会開催（広報ところ） 常呂川上流企業の工場廃液による汚染度は、昭和40年に水質基準が設定されたにも依然として改まらず、汚水撲滅総決起大会を開き、大会決議を採択し、前回同様に参加者全員バスで北見市に出向き、北見市・関係工場に決議文を手渡し、強く反省と改善を求めた（常呂漁協発祥百周年誌）
昭和46年	1971	11月1日	日吉小学校が大雨のために吉野、川向、平和、登地区登校不能のため出席停止（日吉小80年史）
昭和47年	1972	1月26日	日吉小学校が吹雪のため臨時休校（日吉小80年史）
		3月2日	日吉小学校が吹雪のため3日間臨時休校（日吉小80年史）
昭和47年			常呂川日吉左岸築堤工事完成（常呂川治水史）
昭和48年	1973	9月	共立部落で「水難者供養碑」再建（現在は共立会館敷地内） *元々は、昭和15年8月1日、10号堤防と道々の間に建立（共立百年史）
昭和49年	1974	1月	サロマ湖に流水流入、ほたて養殖施設被害甚大（常呂町百年史）
昭和50年	1975	5月19日 5月21日 5月20日	常呂川増水により、福山小学校西部地区児童出校停止（福山小学事報告） 常呂川出水により、福山小学校西部地区児童出校停止（福山小学事報告） 大雨により町内で堤外冠水300ha、堤内冠水が730ha、共立・日吉・福山・岐阜の一部が冠水し、共立川東では堤内の130haが冠水し、玉ネギビートの苗の腐敗、圃場における馬鈴薯の種いも腐敗を招いた（共立百年史）
		8月22-24日	台風6号の大雨で浸水家屋12戸、田畑浸水280ha、被害総額8692円（常呂町百年史）
		9月8-9日	大雨で被災農地419ha、浸水11戸、被害額1億9126万6000円（常呂町百年史） 2度の台風によりライトコロ川氾濫。大凶作（富丘百年史） 9月8日には70ミリの豪雨で畑地冠水、国鉄・道路寸断（共立百年史）
		9月9-10日	常呂川の増水により、福山小学校西部地区出校停止（福山小学校学事報告）
昭和51年	1976	2月24日	日吉小学校が吹雪のため臨時休校（日吉小80年史）
昭和52年	1977	2月3日	日吉小学校が吹雪のため臨時休校（日吉小80年史）
昭和53年	1978	7月11日	集中豪雨と降ひょうにより豊川以北の各地に多大の被害を受ける。 被害額32,500万円（農協50年史）
昭和54年	1979	10月20日	台風20号襲来、農作物・建物・漁業等に大被害。 （のぞみの園）北側ロビー屋根トタン吹き飛ばす（最大瞬間風速35m） （のぞみの園開園20周年記念誌） 全壊非住宅10棟、半壊6棟、一部損壊181棟、農業被害3854万円、漁業被害2億4550万円、林業被害2436万円、土木被害120万円 公共施設（のぞみの園）789万円（新北見市史） 福山小学校プール天蓋ビニール完全破損（福山小学校学事報告）
昭和55年	1980	3月10日	暴風雪により住宅一部損壊2棟、避難者収容4戸10人、農業施設被害292万円（新北見市史）
		3月11日	日吉小学校が吹雪のため2日間臨時休校（日吉小80年史）
昭和56年	1981	5月29日	暴風雨により、農作物238ha、3750万円。水産被害790万円（新北見市史）

昭和57年	1982	11月25日	暴風（最大瞬間風速31メートル）により、軽傷1人。住宅一部損壊5棟、非住宅一部損壊6棟、漁船沈没破損4件、漁網被害3億1800万円 (新北見市史)
昭和60年	1985	1月29日 6月15日	日吉小学校が吹雪のため臨時休校（日吉小80年史） 霜により農作物に被害
昭和63年	1988	10月31日	暴風雨により、住宅一部損壊9件16世帯、水産施設11件、定置網9件（3億4,816万円）、役場庁舎屋上棚破損（新北見市史）
平成元年	1989	3月 6月29日	サロマ湖内に流氷流入、緊急流氷対策、乗組員全員出動3日間滞在し、沖に去る（常呂漁協創立50周年記念誌） 大雨により農作物875ha冠水、被害額564万円（新北見市史）
平成2年	1990	7月24日	サロマ湖への流氷流入を防ぐ第4種サロマ湖漁港の工事起工式 (広報ところ)
平成4年	1992	7月3日 8月9-10日 9月11日	降ヒヨウにより耕地1,800haに及ぶ大被害（農協50年史） 午後2時半頃降雹、常呂町耕地の37%、1800ha以上の農作物に被害 共立川西側では9号、川東側では7号付近で直径2~3cmのヒヨウ (共立百年史) 台風10号の集中豪雨により常呂川増水し堤防決壊寸前（常呂町百年史） 床下浸水1戸、堤外の畑浸水と堤内の畑一部冠水被害352ha（3億3,323万円）崖崩れ3件、道路被害32ヶ所（新北見市史） 台風17号により常呂川増水し、農作物被害 農作物の被害面積は4,187ha、被害額は19億6,600万円。 *畑作共済金7億2,000万円支払いされる（農協50年史） *6月の低温、遅霜、ヒヨウ害、2回にわたる水害により20億円の大被害となる（農協50年史） *玉葱価格暴落し玉葱121t廃棄処分を行う（農協50年史） 10日から2日間の降水量が179ミリ、常呂川をはじめ、町内各河川増水流域の圃場が水没・浸水。福山の幌内川、日吉の隈川で堤防決壊、圃場の土砂流出（共立百年史）
平成4年			雹害にあたり共立神社の屋根葺き替えを行う（共立百年史） 平成4年は100年に一度あるかないかの災害に見舞われた年。降雹、台風10号、台風17号、相次ぐ災害と日照不足、長雨（共立百年史）
平成6年	1994	9月21-26日	台風の影響で常呂川増水。内水溢れ網走開建・網走土現に内水排除依頼。農作物475ha冠水被害（8,853万円）、波浪による定置網被害8件（1,850万円）、土木被害6件（新北見市史） 水害にあいビートが出荷不能の者も出る（共立百年史） 高温早魃により作物全般が被害にあい、玉葱は町平均3トン台と初めての経験をする（共立百年史）
平成8年	1996		麦収穫時の降雨・低温により秋小麦全量規格外となり11億円の被害（畑作共済金9億4,000万円支払いされる）（農協50年史）
平成9年	1997	5月4~5日	強風により甜菜、玉葱等150ha、育苗ハウス倒壊の被害（農協50年史） 作物全般に強風被害受ける。小麦収穫後半に穂発芽発生（富丘百年史）
平成10年	1998	4月 7月18日	凍霜害（4月26日~27日）風害（4月30日~5月1日）により甜菜150haの被害（農協50年史） 常呂漁港内で水難救済会第24回北海道地区総合訓練大会開催（全道109救難

		8月27-29日	所所員600人参加、常呂救難所が総合準優勝（常呂漁協発祥百周年誌） 台風4号による集中豪雨で農作物の被害面積825ha 被害額が2億5,176万円にのぼる（常呂町百年史 新北見市史）
		9月16-17日	台風5号による大雨で再び常呂川増水。農作物の被害面積1,044ha、 農業被害額9億8,200万円、水産被害17件で4510万円 水道・百年記念塔も破損（常呂町百年史 新北見市史）
		9月17日	川沿小学校在が水害のため川東・福山地区児童出席停止（川沿小百年史）
		10月5日	日吉小学校在が台風による破損体育館屋根修理（日吉小学事報告）
平成10年			初雪が根雪となり大豆雪の下（富丘百年史）
平成13年	2001	9月10日	秋雨前線の停滞と台風15号の影響で常呂川増水、農作物・外海ホタテに 被害甚大。農作物の被害面積が304ha、被害総額が2億800万円、 水産被害ホタテ貝へい死24,791千個、面積6.5km <sup>2</sup> 、漁船被害4隻 など被害総額は約10億円にのぼる（ところ通信） 馬鈴薯、タマネギ、てん菜などの圃場で冠水・流出発生。冠水面積は1126ha 被害額5億5700万円（農協70年史）
平成13年			流水の流入を防ぐための防水堤、サロマ湖第2湖口アイスブーム完成 （常呂漁協発祥百周年誌）
平成14年	2002	8月20-22日	台風13号により常呂川増水、農作物242ha、河口漁港、定置網に 被害（ところ通信 新北見市史）
		8月29日	水防訓練初めて実施（常呂漁協発祥百周年誌）
平成15年	2003	8月9日	台風10号により農作物245haが冠水（新北見市史）
		9月26日	午前4時50分、十勝沖M8.0の地震発生、常呂町震度3（新北見市史）
平成16年	2004	1月13日	記録的な暴風雪により交通途絶（～15日） 日吉小学校在が未明から16日にかけて記録的な豪雪（学事報告）
		1月15日	暴風雪により豊浜で316戸停電（新北見市史）
平成18年	2006	8月19日	日吉小学校在が台風10号の影響による大雨で常呂川増水し、避難指示発令。 日吉会館に住民避難（学事報告）
		10月7-9日	日吉地区の大雨による常呂川の増水により、避難指示発令。日吉小学校在に 住民避難。9日になって解除（学事報告） 道道日吉端野線通行止め（新北見市史） 常呂川が計画高水位まで増水、福山・日吉両地区に避難指示、道道7号線が 2日間通行止め。農地・育苗ハウスの表土被害（農協70年史）
		10月8日	大型低気圧により鮭定置網流失、4億5000万円被害（常呂漁協発祥百周年誌）
		11月15日	択捉島沖地震（M7.9）で常呂自治区に津波避難勧告発令、350人避難 （新北見市史）
平成19年	2007	1月13日	千島列島東方沖地震（M8.2）で常呂自治区に津波避難勧告発令230人 避難（新北見市史）
平成20年	2008	3月4日	常呂漁協常呂救難所創立40周年記念式典（常呂漁協発祥百周年誌）
		6月26日	漁船海難防止・水難救済センター全道大会（紋別漁港）で開催。北見地区 8救難所参加、常呂救難所が総合優勝（常呂漁協発祥百周年誌）
平成22年	2010	10月26日	常呂の最大風速が1977年の観測史上1位となる18.7mを午後8時6分に 観測（新北見市史）
平成24年	2012	3月5日	岐阜地区の治水を改善する網走開建の国営岐阜地区土地改良事業（排水機場 ・排水路整備）完成・竣工式：鶴雅リゾート（北海道新聞）*岐阜排水機場 平成18年着工、6年の歳月をかけて完成（常呂町農協70年史）

		7月31日	午後2時から15分間にわたり、常呂自治区広範囲で暴風雨と直径約2.5ミリの降雹（降雹被害面積948ha、暴風雨倒伏被害1756ha） （常呂町農協70年史） *ヒョウ
		9月16日	網走地方気象台がサロマ湖で16日に目撃された気象現象について、竜巻と認定・発表。サロマ湖で竜巻が確認されたのは、記録が残る1961年以降で初めて。竜巻の強度は不明（北海道新聞・読売新聞）
平成25年	2013	2月8-9日	暴風雪により常呂自治区の国道・道道通行止めとなり、車輛10台立ち往生16人を避難所に収容（新北見市史）
		3月2-3日	暴風雪の最大瞬間風速（アメダス）常呂で31.4メートル。常呂自治区の国道・道道通行止め、大型バス含め車輛81台立ち往生、自衛隊派遣で避難所4ヶ所に285人収容。369戸が停電（新北見市史） 強風・大雪でビニールハウス49棟、倉庫9棟被害（常呂町農協70年史）
平成25年		4月1日	常呂自治区の防災行政無線供用開始（北海道新聞） 大正13年に完成した14号地点の常呂川ショートカット工事による新河道（豊川新水路）で残った4沼の内、堤外の長沼・中沼が埋め立て平成26年に堤内の北馬蹄沼が埋め立て（南馬蹄は未処理）
平成26年	2014	3月15日	豊浜地区に建設の津波避難路完成、通行体験会（北海道新聞）
		8月21日	常呂川流域に激しい大雨。常呂自治区・端野自治区の堤外地農地が冠水、83ha作物が被害（新北見市史）
平成27年	2015	10月8-9日	台風23号崩れの低気圧が停滞して暴風雨、10棟床上浸水（新北見市史）
平成28年	2016	8月	8/17夕方、台風7号が襟裳岬付近に上陸、夜遅くオホーツク海に抜ける 8/21台風11号が釧路市付近に上陸、8/22未明にオホーツク海に抜ける 8/23台風9号が新ひだか町付近に上陸、8/23昼前にオホーツク海に抜ける *日吉地区の左岸堤防2ヶ所から越水、柴山沢川左岸堤防決壊。福山地区両岸堤防から越水、東亜川堤防決壊。死者1名（新北見市史） 8/21未明、道道北見常呂線が冠水で通行止め、運転者1人死亡 （新北見市史） 河川の被害状況 決壊：常呂川支川（柴山沢川・東亜川） 越水：常呂川4カ所 溢水：ポン隈川 住家被害：床上浸水1、床下浸水2 停電：日吉地区 8/21 2:07-8/24 14:412 （まちを語る集い資料）
		9月23日	台風7号・台風11号・台風9号・台風10号激甚災害の指定を受け、災害復旧に取り組む（新北見市史）
平成29年	2017	7月1日	北見市議会総務教育委員会で、千年に一度の大雨を想定した常呂川流域の浸水予測を反映した常呂・端野両町のハザードマップ公表。8月末に両町住民に配布（北海道新聞）
		9月8日	平成28年夏の豪雨災害で人命救助や被害軽減に貢献した北見地区消防組合常呂消防団が防災功労者内閣総理大臣賞受賞。昨年8月の連続台風豪雨災害の発生時、同消防団からは計8日館で延べ129人が出勤。住民に避難を呼びかけたほか、地域の警戒巡視や水没した車からの住民の救出活動に従事（北海道新聞）
平成30年	2018	7月19日	常呂川下流地区水害タイムライン検討会発足：多目的研修センター各関係機関代表者など93人参加、発足式・タイムラインシナリオ（素案）説明・意見交換 第1回検討会：平成30年12月27日 第2回検討会：平成31年2月22日 第3回検討会：令和元年5月14日
		8月17日	台風7号の影響で国が定めた観測所の水位の統計が過去最高を記録。太茶苗観測所14.24m、上川沿観測所8.22mと100年に1度という大雨により想定した堤防の限界値「計画高水位」を突破（新北見市史）



令和元年	2019	7月12日	常呂川下流地区水害タイムライン試行版完成。地域の住民が水害から円滑に避難できるように定める「事前防災行動計画（タイムライン）試行版」が完成し、多目的研修センターで防災に関わる16団体が参加し、完成式と検証訓練、フォーラム開催（ところ通信自治区版） タイムライン第4回検討会、試行版完成式及び試行版完成式フォーラム開催（国土交通省プレスリリース）
令和4年	2022	11月4日	福山23号排水ポンプ場修葺式 *管理は北見市と福山23号排水ポンプ場組合
令和5年	2023	8月15日	常呂川下流地区の国営かんがい排水事業起工式：共立地区道々北見常呂線（市道7-8号線間）で排水機場・排水路を整備：令和9年度完成予定（ところ通信）*第一幹線排水路共立排水機場
		8月	「北見市WEBハザードマップ」運用開始
令和6年	2024	7月17日	日吉排水ポンプ場完成・修葺式 *日吉27号・30号排水ポンプ場 日吉地区で建設していた排水ポンプ場2施設が6月下旬に完成。常呂川流域の日吉地区は、平成28年8月には3度台風が襲来し、約60ヘクタールの農地に浸水。オホーツク総合振興局が国や道、北見市と協力し、令和2年から排水ポンプ場の建設に着手。樋門閉鎖時に、側溝にたまった水をポンプでくみ上げて常呂川に排水することで農地への浸水を防ぐ。ポンプ場は市道27号線、同30号線沿いにそれぞれに設置。北見市と日吉排水ポンプ場組合が管理運営（北海道新聞）